

私の所属する大学には、新入生に対するチューター的な役割を果たす学習相談員という役回りがあります。今年、10年ぶりにその役回りが私に巡ってきました。学習相談員になると、新入生ゼミナールという講義を担当することになっています。この講義は、高校教育から大学教育への円滑な移行を図るため、また新入生が積極的な学習意欲および問題意識を身につける目的で設けられたものです。10年前に担当した時には、この新入生ゼミナールが導入されて間もない時期でした。そのころは新入生を数人のグループに分け、グループごとにテーマの設定、グループ討論、成果の発表などを行いました。今年度も基本的な内容は同じですが、10年経過して大きく変わったことが一つあります。それは4月から5月にかけて多種多様なガイダンスが、あらかじめ講義日程に組み込まれていることです。例えば、図書館の利用方法、心の健康、大学生活のリスク対策、情報セキュリティ、警察による安全に関するガイダンスなどです。これらは、現在の学生が大学生活を充実させる為に必要なもので行っているのですが、新入生ゼミナールの半分近くを占めています。私が学生だった頃(30年くらい前!)は、新入生ゼミナールのような内容の講義はありませんでしたし、各種ガイダンスももっと簡単なものだったと記憶しています。おそらく時代とともに大学が果たさなければならない役割が変化し、新入生ゼミナールのような講義や各種ガイダンスの充実が必要になってきたのだと思います。このような手厚い教育・指導を行う傾向は、新入生に対してだけでなく2年生以降のカリキュラムにも見られます。今後もこの傾向は続いていきそうな気がしますが、この先さらに10年後はどうなっているのでしょうか。

(MH)